

28 幸手宿 ~ 栗橋宿

埼玉県幸手市  
幸手宿 ~ 権現堂

(歩行距離 1706m 22分)

歩く地図でたどる日光街道

http://nikko-kaido.jp/  
JZE00512@nifty.ne.jp



**高須賀大杉神社** 弁財尊天  
大杉神社は中川の左岸に隣接する。弁財尊天は社殿の前に祀られている。天明3年(1783)4月台座に8人の名前。高さ68cm、幅26cm、脇の大杉大明神の台座は庚申塔である。

**常福寺**  
常福寺は高須賀池の東側、中川の右岸堤防に隣接する。延宝三年(1675)十月奉造立庚申。庚申塔(三猿)。高須賀村本田新田 施主敬白 高さ90cm、幅39cm

**橋守部河翁遺跡碑**  
橋守部  
江戸時代後期の国学者。ほとんど独学で国学を修め、29歳の時幸手宿の北、内国府間村に來住、文政12年(1815)江戸深川に転居するまでの20年間を当地で過ごし、静かな環境の中で多くの著作を残した。守部は当時の主流的学統であった本居宣長を元とする学風を大胆に批判、宣長とは異なる一家の学風をうちたてようと努めた。また「穿履集」(うけぐつしゅう)をはじめ多くの和歌を残している。

**宝持寺**  
鎌倉末期に一色公深(公保)が父・足利泰氏の遺領・下総国葛飾郡田宮荘を相続し、三河国幡豆頭一色より移住して館を構えた場所といわれる。開基は「一色宮内卿公保にて、寛正5年(1464)2月17日卒。法名宝持寺殿孝嚴相公庵主といふ」(日光道中略記)  
境内には一色公深の供養墓がある。  
幸手城を築くまで一時的に住んだ館だったのかもしれない。

**比丘尼沼** 「幸手宿、当村の境にあり」(日光道中略記)昔、比丘尼沼があり、沼の中から牛に乗った比丘尼が夜ごと出て道中の妨げをしたのを正福寺の秀翁が法力でその牛をつなぎ、怪奇をとめたという伝説がある

**宝持寺**  
この道路は狭く歩道がない

車が少ないのどかな道  
至栗橋  
行幸堤  
高須賀  
網元  
新東鉄工

出羽橋  
高須賀集会场  
日光道中  
日光街道  
常福寺  
高須賀

明治天皇行幸記念碑  
日光街道  
日光道中  
高須賀

内国府間(北)  
XEX車販売  
加須へ  
高須賀袴線橋

黒田釣堀  
東リース  
SAKURA  
いこい  
タイヤランド

プロローグ  
八幡神社  
第一浄水場  
内国府間  
ファニチャーオグリ

幸手商高  
新井石材店  
志乃寿司  
幸和設備工業  
新井自転車

幸手中  
Yショップ  
幸手宿  
幸手市街

ヒューマンサポート  
共和タクシー  
古川製作所  
墨鉄工所  
平間自動車

さいたま幸手線  
オグリ  
北会館  
至栗橋

行幸堤  
堤塘(ていとう)の長さ八百間、幸手、栗橋二駅の有志者が明治八年(1875)之を修築し、似て権現堂川河水の氾濫を防ぐ。翌九年(1876)今上天皇東巡、此地を過ぎさせ給ひ、功を嘉して行幸堤の名を賜ふ。(日本名勝地誌)国道4号線は行幸堤の上につくられた。

権現堂堤  
「字権現堂川通、堤長三百五拾式間余、高式丈壹尺余」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)権現堂川は天正4年(1576)頃からかつての利根川の本流の一つで、洪水を防ぐため堤が造られた。「うすみなす長き堤」「御府内お困い堤」(江戸を守る堤)といわれた。

大正5年(1916)に約3000本の桜が植えられたが、太平洋戦争時に、燃料用薪として伐採、昭和24年(1949)再植樹。

幸手河岸  
順礼供養塔  
権現堂  
順礼樋管  
順礼の碑  
権現堂川用水記念碑

順礼の碑  
権現堂川用水記念碑  
順礼樋管  
順礼供養塔  
権現堂

清保堂  
僧侶・清保善士が祀られるお堂。耳病にご利益があるとされ、快癒のお礼に「錐」を奉納する。

ここから桜並木の歩道が土手沿いに続く

熊野神社  
野原商店  
権現堂河岸跡  
水神社  
根本商事  
木村剥製  
クリーニング  
至春日部

石塚外科  
野原肥料倉庫  
潮来自動車  
増山クリニック  
あづま橋  
戸川歯科  
中野

「川除堤東のかたは権現堂村につき、西は八甫村にいたる」(日光道中略記)

明治天皇行幸記念碑  
明治9年(1876)、明治天皇の奥州治幸のさい、堤防工事を視察し、堤の名を行幸堤と呼ぶことが許され、記念碑を建てるための費用が下賜された。題額は岩倉具視による。

順礼の碑  
「順礼の碑」「供養塔」  
享和2年(1802)、長雨が続き堤が壊れ、何度修理しても壊れてしまう。ある時、この堤を通りかかった母子巡礼が「竜神のたたりかもしれない。人身御供を立てなければなく、しかたなく、母は「私が人柱になるう」と渦巻く泥水の中に身を投げました。これを見た娘もその後を追いまわした。すると不思議に水がひき、難工事も完成できた。

権現堂河岸跡  
「米の津だし」  
内国府間村、権現堂河岸八町、夫より江戸迄川路式拾里」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)  
「権現堂河岸は問屋六軒、船九艘、江戸まで水路凡二五里、慶長四年(1599)定書に見ゆ」(新編武蔵風土記稿)川沿いに船問屋が軒を並べ、河岸は入船出船で賑わい、江戸まで穀類、雑貨、食料品、木材などを運んでいた。江戸幕府直轄の天領となり、権現堂川、江戸川がつくられ、舟運が発達した。

橋を渡ると茨城県五霞町、4号バイパスへ

順礼樋管  
昭和8年(1933)竣工。  
新狹  
明治25年(1902)築造の後、明治38年(1905)に深谷製の煉瓦造りに改築された。ともに近代化を支えた権現堂川用水の取水水門で、土木学会選奨土木遺産に認定されている。

熊野権現社  
「村内に熊野、若宮、白山の権現を合祀旧社あれば、此村名起これり」(新編武蔵風土記稿)熊野権現社は、紀州(和歌山県)の熊野権現社の分社で、権現堂村や権現堂川の名の起りでもある。この付近は、江戸時代から大正時代にかけて権現堂川の船着場として栄え、神社には、船主や、船頭、江戸の商人等からの奉納品が数多く保存されている。明治28年(1895)に奉納された権現堂堤修復給馬は、幸手の絵馬師鈴木国信の作で、地形築きや土端打ちの女人足が揃って作業を行っているところを描いている。当時の治水技術を知る上で貴重な資料となっている。

清保堂  
僧侶・清保善士が祀られるお堂。耳病にご利益があるとされ、快癒のお礼に「錐」を奉納する。

ここから桜並木の歩道が土手沿いに続く

熊野神社  
野原商店  
権現堂河岸跡  
水神社  
根本商事  
木村剥製  
クリーニング  
至春日部

「川除堤東のかたは権現堂村につき、西は八甫村にいたる」(日光道中略記)



明治天皇行幸記念碑

「順礼の碑」「供養塔」  
享和2年(1802)、長雨が続き堤が壊れ、何度修理しても壊れてしまう。ある時、この堤を通りかかった母子巡礼が「竜神のたたりかもしれない。人身御供を立てなければなく、しかたなく、母は「私が人柱になるう」と渦巻く泥水の中に身を投げました。これを見た娘もその後を追いまわした。すると不思議に水がひき、難工事も完成できた。

権現堂河岸跡  
「米の津だし」  
内国府間村、権現堂河岸八町、夫より江戸迄川路式拾里」(日光・奥州・甲州道中宿村大概帳)  
「権現堂河岸は問屋六軒、船九艘、江戸まで水路凡二五里、慶長四年(1599)定書に見ゆ」(新編武蔵風土記稿)川沿いに船問屋が軒を並べ、河岸は入船出船で賑わい、江戸まで穀類、雑貨、食料品、木材などを運んでいた。江戸幕府直轄の天領となり、権現堂川、江戸川がつくられ、舟運が発達した。

